

# 「投げたい」思い募る

## センバツ光星惜敗

兵庫県西宮市の甲子園球場で行われている第88回選抜高校野球大会で26日、龍谷大平安(京都)に敗れた八戸学院光星。背番号11の新3年、安藤謙二選手(白銀中出)はベンチ入り唯一の青森県出身選手だ。控え投手で登板機会はなかったが、「忘れられない試合になった」と貴重な経験を胸に夏を見据えた。

## 県出身ベンチ入り 安藤選手(白銀中出)



青森県出身で唯一ベンチ入りした光星の安藤謙二選手。26日、甲子園

## 貴重な経験 夏見据え

の同校選手が中学を訪れた。葉を思いは強まり、同じ光星がある。「甲子園は繁星の門をたたいた。張するけど、めっちゃ、い。高校には自宅からも通えないところ」。金沢投手の言うが、「みんなと同じ生活

を」と寮生活を選んだ。入学直後は苦労したが、1カ月もすると慣れ、野球を楽しめるようになった。当時の白銀中は、県内でトップクラスの強豪。安藤選手はエースで主将とチームの柱だった。だが他の高校に進んだ白銀中の仲間が中、自身は2年上がって

から試合に出られなかった。「焦りもあったが努力は毎日した。新チームになってベンチ入り。入学時、最速126km/hだった球速は136km/hまで上がった。そんな安藤選手の背中を追って光星に入った後輩もいる。新2年の櫻庭智也選手だ。白銀中では安藤選手がいた。安藤さんがいたことも光星を選んだ理由の一つ」という。

(田沢奈々)

## 奮闘ナインたたえる 留守部隊 大きな拍手

八戸市の八戸学院光星高では26日、運動部の生徒や教職員ら約70人がオープンスペースに集結。スクリーンに映し出された中継映像を見ながら、8強入りを懸けて戦うナインに大きな声でエールを送った。



試合は何度も得点圏へ走者を進めながら、あと一本が出ない歯がゆい展開。生徒はチャンスのたびに祈るように画面を見詰め、逃すと「ああ」とため息を漏らした。

そのままゲームセットを迎えたが、粘り強く戦ったナインには大きな拍手が送られた。弓道部の松橋利佳さん(17)は「何度もピンチをしなきゃ、いい試合をしていた。夏も頑張っしてほしい」と奮闘をたたえていた。

(林泰輔)

中継映像を見ながら、ナインにエールを送る生徒ら。26日、八戸学院光星高